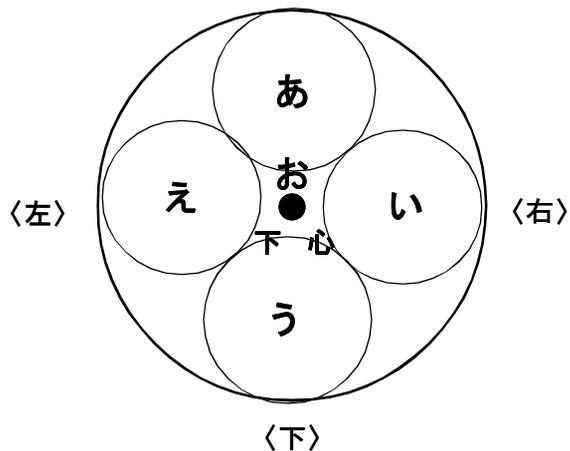
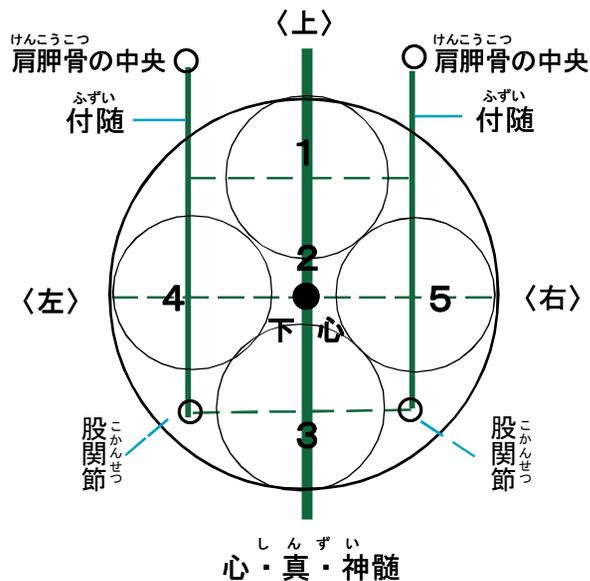


【イメージの活用】 [元気] (気の玉間和り)



小人さんと串団子

* はらの調律点その1・その3・その4・その5

小人さんたちが小玉を内回転→黒い串団子：〈裏〉の勘覚

小人さんたちが小玉を外回転→白い串団子：〈表〉の勘覚

* はらの調律点その2 (下心)

大玉の縮小→〈裏〉黒/大玉の拡大→〈表〉白は、各自、工夫を!

花がとじる

* 「あ・い・う・え・お」と発音



花がひらく

* 「お・え・う・い・あ」と発音



四つ葉のクローバー



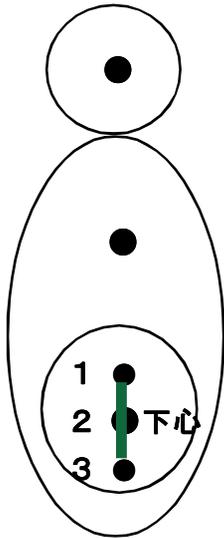
* 「あ・う・え・い・お」と発音→
〈裏〉黒い四つ葉のクローバー

* 「お・い・え・う・あ」と発音→
〈表〉白い四つ葉のクローバー

【イメージの活用】



縄文杉@屋久島

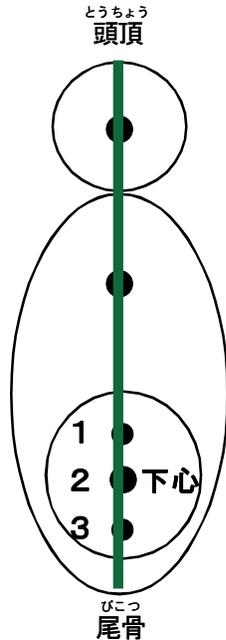


(1) 狭義のこし

木が芽ぶく

【こしを立てる】

木が育つ

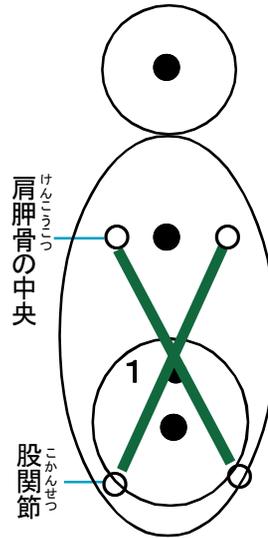


(2) 広義のこし

幹が伸びる

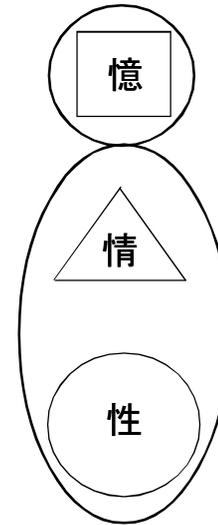
【心をはらに治める】

“心字”が消える



(3) 気の筋交い

枝が広がる



(1) 「意」の字が風に飛んで行く

(2) 「心」の字が水に流れて行く

(3) 「生」の字が火に燃えて行く

三つのところ ことば遊び

(1) 「その風を得て、心より心に伝ふる花なれば、風姿花伝と名付く」(世阿弥『風姿花伝』) / 「意識が飛ぶ」

(2) 「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。世の中にある人と栖と、又かくのごとし。(中略) 朝に死に、夕べに生まるるならひ、ただ水のあわにぞ似たりける」『方丈記』 / 「情に流される」

(3) 「〇〇に燃える」 / 「一隅を照らす、これ即ち国宝なり」 by 最澄